

家禽デフテリアの
豫防と治療法

家禽デフテリアは四季を通じて年中ほどなく発生する疾患で、しかし細菌性傳染病であるが經過が緩慢で、家禽コレラを見る如き深刻なる感じを飼養者に與へないため豫防及治療手當が等閑に附され勝手のは遠慮この上もない

家禽デフテリアの症狀

外部的の方面がちいへば、口腔、咽喉、氣管、鼻腔、眼等は勿論、内部的に侵入すれば、肺、胸、肝門等、ほんざい體を完膚なきまでに裂かれる。細菌による疾患である。

成鶏二キログラム位のもの

一羽に對し、六十日まで

雌(百日までのもの)

一羽に對し、三十日まで

雄(百日までのもの)

一羽に對し、三十日まで

味寸
スドーダア
田吉.R

れてシゲーデに浮れに附みました。けれども、出ました。生産する共年はセツカミ安事の苦な忘れて消費。値で懲り見事に外する事の興味も覺えられました。自然の悪く悪い遊びごとに財布を空にしてしまひました。自然の悪意な事に消費してしまつた。去年の事を考へて自分は罰せられて居るのでないだらうか? 彼は、又来る年を期して云ふことを内感し待してセツセツと生産かけました。(丁)

備塔タル皇太子は皇太子トス
この條文により、御誕生あらせら
れた皇太子は直ちに皇太子と稱呼し
奉るべく、この稱呼は特に宣傳に
よるものでなく、當然の取得なの
である。
しかしして立太子の禮、即ち立儲の
禮は皇嗣たる地位の確認及び祖宗
に對する奉告の儀禮に過ぎないも
のである。
以上のやうな明かなる條規あるにも
かゝらず、前記の如き^ヤがて
皇太子^ノなら^シせ給ふべき皇子^ノを
いふ一文は、そも同文筆者の如何
なる解釋によるものであらうか、
責任ある釋明^{シヨウメイ}ありたいものだ。
従ひに店を開けた廣小路の夜店
りも、小学生ただ一つなりぞし
全な落ついたソツのない仕事を
みた。例へば彼が二十頁そ
らのハンフレット一つだけの仕
事なりし、その仕事の中に、學
問高闊博士^{カクボシ}な古語^{コゴ}を説く
も學究的、良心的な一團の人々
片々二十頁そぞりの機譯^{キイチ}に
容易に幾多の誤解^{クセキ}不用意な誤
誤^{ミス}が發表されれる
いづれも結構至極なものばかり
ある。しかし、我々は五生會の
面六臂の大活動手に汗^{あせ}握つ
見た^{シタ}いこそ決して思はない
大事業企^キ劃^{ハセ}が發表されれる
ものである。しかし、我々は五生會の
面六臂の大活動手に汗^{あせ}握つ
見た^{シタ}いこそ決して思はない
といふに^テたくないからだ。それ
も、小学生ただ一つなりぞし
全な落ついたソツのない仕事を
みた。例へば彼が二十頁そ
らのハンフレット一つだけの仕
事なりし、その仕事の中に、學
問高闊博士^{カクボシ}な古語^{コゴ}を説く
も學究的、良心的な一團の人々
片々二十頁そぞりの機譯^{キイチ}に
容易に幾多の誤解^{クセキ}不用意な誤
誤^{ミス}が發表されれる

An illustration of a potted plant with several long, dark, lanceolate leaves. The plant is contained within a dark, rounded pot.



貴下の不満、希望
その他諸々の感想
の自由なる發表に
提供した一頁です
忌憚なく卒直に、
火蓋を切られよ

CASA FOTO

SÃO PAULO - R. SÃO BENTO, 45

Casa dos amadores

小型カメラ時代

寫眞レンズ及乾板、
ライカの時代
良さ引伸写眞技術の進歩に伴ひ小
型カメラ時代となりました
写眞を業むる格は低
廉価にてカメラ時代よりまことに
版先づ写眞を業むる事が出来ます
新店舗アカタロード御開業無代急送いたし
カタログ進呈

眼鏡ソアイズ
カールツアイス製優秀レンズ各種取扱
つてあります「アンクルターレ」「ウロコ
ンクル」「ウレアチール」等々

カタログ進呈

輕便露出表(カードレンジ)附
居上出来上りました御申込下さい。販
居ります。御照會には左の御申込下さい。販
居處なくして店員が出来ます。

小林泰治

一邦字紙の
不敬を難ず
バウル 小宮 涉
當地から發行してゐる一邦字新聞
新年號の『正清』(正清)に掲げてある皇
慢性諸病を根治する針灸マツ
サージ電氣療法殊に神經病婦
人病等
リンス市九月七日街五〇
川原物理療院
(下矢鐵工所の前)

を見出す我々は、互生會の計劃事項のこれを見ざられても、甚だ頗りない興味を感じずにはゐられない。かくのごとき不用意、軽率な人々の手で撮はれる中學講義に縁はない、不謹慎極まるもので、いままでに再讀するだけ懼れ多い限りのものである。しかも當の本人自身「雲の上」に坐り奉っては、「斯ふした言葉は申上げられない」と認めてゐながら、敢てその不敬極る喩例を母國下に奉つてゐるに至つては全く語斷さいはねばならない。恐らくおの文章は新聞社内の筆者であらうと思はれる、果して然りや。社會の木鐸としての常識認めなりけども、そも何處に裏打ちがあるか、愚生あひてこに信問